

## 京都大学人文科学研究所国際研究ミーティング実施報告書

### 1. 国際研究ミーティングの名称

中国石窟寺院に関する拓本資料の再検討

### 2. 主宰責任者氏名

佐藤 智水(龍谷大学文学部・客員教授)

### 3. 開催日時等およびプログラム(講演者名または報告者名を明記してください)

#### ①日時:2019年10月8日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:田林啓(白鶴美術館学芸員・京都大学人文学連携研究者)

#### ②日時:2019年11月12日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:田林啓(白鶴美術館学芸員・京都大学人文学連携研究者)

#### ③日時:2019年11月26日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:高志緑(大阪大学大学院)

#### ④日時:2019年12月10日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:高志緑(大阪大学大学院)

#### ⑤日時:2020年1月14日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:稲本泰生(京都大学教授)

#### ⑥日時:2020年1月28日 14:00~17:00

場所:京都大学人文科学研究所 北白川分館 考古藝術共同研究室

演題等:中国石窟拓本資料の再検討

講演者または報告者:稲本泰生(京都大学教授)

### 4. 概要(400字程度)

中国の石窟寺院には膨大な数の文字資料(主に仏像制作を記録した造像記)がのこされており、人文研では前身の東方文化研究所時代以来、所蔵拓本を素材に造像記研究を続けてきた。現在では「龍門北朝窟の造像と造像記」班がその役割を担っているが、美術史・考古学研究者が主体であるため、翻刻・

解釈については非常勤講師の佐藤が仏教史学研究の立場から助言を行っている。

本国際研究ミーティングは、同班に外国人研究者が恒常的に参加している点に鑑み、国内外の研究者が合同で石窟寺院由来の拓本資料を再検討する機会として計画され、2019年10月から2020年1月にかけて六度にわたり開催された。

各回とも、文字資料の質量において中国有数の存在である、龍門石窟古陽洞で採拓された拓本資料に検討を加えた。対象としたのは第1・2回が洞内西壁、第3～6回が北壁の作例である。当日は中国人留学生や在外日本人研究者をまじえた参加者の間で幅広い討論が交わされ、複数の拓本の照合によって、造像記読解の信頼度を向上させる貴重な知見を共有できた。

## 5. 参加者(別紙「参加状況」も記載してください。)

### ①学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、上枝いづみ(金沢大学)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大学)、王珏人(大阪大学)

学内

折山桂子(文学研究科)

所内

安岡孝一、稲本泰生、倉本尚徳、向井佑介、檜山智美

### ②学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、石松日奈子(東京国立博物館)、外山潔(京都市立芸術大学)、田林啓(白鶴美術館)、上枝いづみ(金沢大学)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大学)

所内

安岡孝一、稲本泰生、倉本尚徳、向井佑介

### ③学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、外山潔(京都市立芸術大学)、田林啓(白鶴美術館)、上枝いづみ(金沢大学)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大学)、王珏人(大阪大学)

学内

折山桂子(文学研究科)

所内

稲本泰生、倉本尚徳、向井佑介、檜山智美

### ④学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、石松日奈子(東京国立博物館)、外山潔(京都市立芸術大学)、田林啓(白鶴美術館)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大学)、王珏人(大阪大学)

学内

折山桂子(文学研究科)

所内

安岡孝一、稲本泰生、倉本尚徳

### ⑤学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、外山潔(京都市立芸術大学)、北村一仁(河南農業大学)、田林啓(白鶴美術館)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大学)、王珏人(大阪大学)

学内

折山桂子(文学研究科)

所内

安岡孝一、稲本泰生、倉本尚徳、檜山智美

⑥学外

佐藤智水(龍谷大学・客員教授)、外山潔(京都市立芸術大学)、北村一仁(河南農業大学)、上枝いづみ(金沢大学)、高志緑(大阪大学)、常鈺熙(北京大學)、王珏人(大阪大学)

学内

折山桂子(文学研究科)、陳怡君(人間・環境学研究科)

所内

安岡孝一、稲本泰生、倉本尚徳

6.助成金の使途等

佐藤智水(龍谷大学客員教授)の参加旅費、岡山⇄京都往復×6回

7.その他(成果や今後の展開等、自由に記載してください)

第1・2回は龍門古陽洞の西壁、第3～6回は北壁の造像記について、入手しうる限りの拓本資料の画像を用いて網羅的な検討が加えられた。複数の拓本を照合することで判読の精度が向上し、拓本資料の特性と問題点についての認識を、実物に即して共有することができた。考古学及び美術史学を専攻する中国人留学生からも積極的な意見が出され、各人の研究に好影響を及ぼす貴重な機会となった。

また第5・6回には中国から帰国中の北村一仁氏(河南農業大学副教授)の参加を得た。氏は北朝地域社会史の領域では学界をリードする研究者の一人であり、近年の現地における造像銘研究の動向や、造像の願主の身分などに関する貴重な情報が提供された。龍門石窟は河南省に位置し、これから同省の研究者との交流を推進する上でも、本ミーティングは期待を抱かせる効果を生んだ。

人文研では龍門研究班で造像記の検討が継続的に行われており、今後は所蔵拓本を採録した資料集の刊行が計画されている。本ミーティングの成果はその信頼性を向上させるとともに、拓本文字データベース(附属人文情報学研究センター運用)の補正・拡充にも貢献するであろう。

## 参加状況

区分	機関数	参加人数					延べ人数				
		総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生	総計	外国人	40歳未満	35歳以下	大学院生
学内(法人内)	4	7 (3)	1 (1)	4 (3)	3 (3)	2 (2)	29 (9)	1 (1)	12 (9)	9 (9)	6 (6)
国立大学	2	3 (3)	1 (1)	3 (3)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	5 (5)	11 (11)	11 (11)	5 (5)
公立大学	1	1 ( )	( )	( )	( )	( )	5 ( )	( )	( )	( )	( )
私立大学	1	1 ( )	( )	( )	( )	( )	6 ( )	( )	( )	( )	( )
大学共同利用機関法人		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
独立行政法人等公的研究機関	1	1 ( )	( )	( )	( )	( )	2 (2)	( )	( )	( )	( )
民間機関	1	1 ( )	( )	( )	( )	( )	4 ( )	( )	( )	( )	( )
外国機関	2	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)	6 (6)
その他		( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )
計	12	16 (7)	3 (3)	8 (7)	7 (7)	4 (4)	68 (31)	12 (12)	29 (26)	26 (26)	17 (17)

※( )内には、女性数を記載

※受入機関、受入人数、延べ人数を区分に応じて記入してください。

※外国人、若手研究者(40歳未満)、若手研究者(35歳以下)、大学院生の人数はそれぞれ受入人数、延べ人数に対しての内数を記入してください。

※受入人数、延べ人数については上段に総数を下段に( )で女性の内数を記入してください。

※「学内」の所属機関数は「学部数」等を記入してください。

※受入人数及び延べ人数の算出方法は、以下の例に基づき算出してください

国際研究ミーティングに参加者2人が3回参加した:受入人数2人、延べ人数6人